

(別紙1) 居宅介護従業者養成研修等カリキュラム

初任者研修課程（介護員要綱に規定する介護職員初任者研修課程の内容に準拠するが、「認知症・行動障害の理解」における「行動障害の理解」については、以下の内容を盛り込むこと。）

教 科 名	内 容
認知症・行動障害の理解	【行動障害の理解に係る内容】 1 行動障害の概要 2 行動障害を起こしやすい自閉症の障害特性等の理解 3 行動障害をもつ利用者とのコミュニケーションや対応の仕方 4 行動障害を持つ利用者の生活支援のあり方

障害者居宅介護従業者基礎研修

教 科 名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
1 講義	(25)			
(1) 福祉サービスを提供する際の基本的な考え方に関する講義	3	福祉サービスを提供するに当たっての基本視点を形成する。	1 QOL等の主要な福祉理念 2 豊かな人間観（生活者としての補助対象の把握、生涯発達の視点、自己実現の視点等） 3 他者理解と共感 4 自立支援（経済・身体的自立と精神的自立、役割意識とプライド、能動性・主体性） 5 利用者の自己決定	障害者行政担当者等 相談援助業務に従事した経験が概ね3年以上の社会福祉士 介護業務に従事した経験が概ね3年以上の介護福祉士 相談援助業務に従事した経験が3年以上の保健師又は看護師 介護保険事業所等において相談援助業務に従事している職員で実務経験が3年以上の者 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(2) 障害者福祉及び老人保健福祉に係る制度及びサービス並びに社会保障制度に関する講義	2	[障害者（児）福祉の制度とサービス] 障害者（児）福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する。	1 障害者（児）福祉の背景と動向 2 障害者（児）福祉の制度とサービスの種類、内容とその役割 3 障害者（児）福祉に関する制度、施策	障害者行政担当者等 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等 相談援助業務に従事した経験が概ね3年

	2	[老人福祉の制度とサービス] 介護保険制度を中心とした老人保健福祉の制度とサービスについて理解する。	1 老人保健福祉の背景と動向 2 介護保険制度の概要とサービスの理解 3 その他の老人保健福祉の制度とサービスの理解 4 医療、年金、生活保護制度、住宅施策等、その他老人福祉に関する制度・施策	以上の社会福祉士又は精神保健福祉士 介護保険事業所・障害者（児）施設等において相談援助業務に従事している職員で実務経験が3年以上の者
(3) 居宅介護に関する講義	3	ホームヘルプサービスの役割と業務を理解するとともに、従事する際の職業倫理について理解する。サービス提供における利用者の人権の尊重について理解する。（職業倫理・人権の尊重について重点項目として取り上げる。）	1 ホームヘルプサービスの社会的役割 2 ホームヘルプサービスの制度と業務内容（障害者総合支援法に係る運営基準等の理解） 3 チーム運営方式の理解 4 近隣・ボランティア等との連携 5 関連職種の基礎知識 6 ホームヘルプサービス業務においてとるべき基本的態度 7 福祉業務従事者としての倫理 8 サービス提供における利用者の人権の尊重、プライバシーの保護等（事例を用いて理解を深めることが望ましい）	障害者行政担当者等 介護業務に従事した経験が概ね3年以上の介護福祉士 介護業務に従事した経験が3年以上の介護員（旧1級課程修了者に限る。）福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(4) 障害者及び老人の疾病、障害等に関する講義	3	障害者（児）、高齢者の心身の特徴と生活像を把握し、援助の基本的な方向性を理解する。 障害者（児）、高齢者の家族に対する理解を深める。	1 障害者（児）、高齢者の心身と生活像の理解 2 障害者（児）、高齢者への援助 3 障害者（児）、高齢者の家族の理解と援助	介護業務に従事した経験が概ね3年以上の介護福祉士 相談援助業務に従事した経験が概ね3年以上の社会福祉士 相談業務に従事した経験が概ね3年以上の精神保健福祉士 介護業務に従事した経験が3年以上の介護員（旧介護職員基礎研修課程、旧1級課程修了者に限る。） 相談援助業務に従事した経験が3年以上の保健師又は看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等 相談業務に従事した経験がある臨床心理士等
(5) 基礎的な介護技術に関する講義	3	介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する。在宅介護の特徴と進め方を把握する。	1 介護の目的、機能と基本原則 2 介護ニーズと基本的対応 3 在宅介護の特徴と進め方 4 介護におけるリハビリテーションの視点 5 福祉用具の基礎知識と活用 6 ターミナルケアの考え方 7 介護者の健康管理	介護業務に従事した経験が概ね3年以上の介護福祉士 相談援助業務に従事した経験が概ね3年以上の社会福祉士 介護業務に従事した経験が3年以上の介護員（旧1級課程修了者に限る。） 相談援助業務に従事した経験が3年以上の保健師又は看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等

(6) 家事援助の方法に関する講義	4	<p>障害者（児）、高齢者への家事援助の目的と機能を理解し、その方法を学習するとともに、家事援助に必要な栄養、調理、被服、住居管理等の知識を学習する。</p>	<p>1 家事援助の目的、機能の基本原則 2 家事援助の方法 3 家事援助における自立支援 4 障害者（児）、高齢者と栄養、食生活のあり方 5 食品の保存・管理 6 ゴミの始末、調理器具・食品等の衛生管理 7 障害者（児）、高齢者への調理技術（味付け、きざみ食等） 8 糖尿病、高血圧等に対応する特別職 9 障害者（児）、高齢者と被服 10 快適な室内環境と安全管理</p>	<p>介護業務に従事した経験が概ね3年以上の介護福祉士 介護業務に従事した経験が3年以上の介護員（旧介護職員基礎研修課程、旧1級課程修了者に限る。） 実務経験のある作業療法士 実務経験のある管理栄養士、栄養士（栄養・食生活・調理面に限る。） 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等</p>
(7) 医学等の関連する領域の基礎的な知識に関する講義	3	<p>[医学の基礎知識] 障害者（児）、高齢者の在宅生活援助に役立つ知識を中心に家庭の医学・在宅看護の基礎知識を理解する。（障害者総合支援法の対象となる難病等の概要を加える。）</p>	<p>1 日常的な疾患の基礎知識と予防・対処方法（風邪、発熱、腹痛、火傷、骨折、食中毒等） 2 感染症の理解と予防（MRSA、B型肝炎、疥癬、梅毒等） 3 身体の観察（観察の視点、体温測定、血圧測定等） 4 薬の飲ませ方と保管 5 医療関係制度の基礎知識 6 障害者総合支援法における難病等の概要</p>	<p>医師 保健師又は看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等</p>
	2	<p>[心理面への援助方法] 障害者（児）、高齢者の在宅生活援助に関連する心理面への援助方法を理解する。</p>	<p>1 心理面への援助の必要性と方法 2 レクリエーションの視点と実際</p>	<p>相談業務に従事した経験がある臨床心理士等 介護業務に従事した経験が概ね3年以上の介護福祉士 相談援助業務に従事した経験が3年以上の保健師又は看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等</p>
2 演習	(17)			
(1) 福祉サービスを提供する際の基本的な態度に関する演習	4	<p>サービス利用者の立場に立った理解とサービス提供者としての基本的態度を形成する。</p>	<p>ロールプレイ等の方法によるサービス提供場面の演習を通して、サービス利用者に対する共感的理解と基本的態度を形成する。 （訪問・退出時の挨拶、傾聴的態度・信頼関係の形成、物を処分・移動するときの言葉かけ、銀行入金代行業務や買い物代行時の注意点[レシート取得等]、できないことの拒否の仕方、助言の仕方、視覚・聴覚障害者等とのコミュニケーション、認知症高齢者等とのコミュニケーション等） ※ 親密さと無礼の境目（「キクちゃん」等の幼児語使用）等にも留意して演習すること。</p>	<p>介護業務に従事した経験が概ね3年以上の介護福祉士 介護業務に従事した経験が3年以上の介護員（旧介護職員基礎研修課程、旧1級課程修了者に限る。） 相談援助業務に従事した経験が3年以上の保健師又は看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等 介護業務に従事した経験のある理学療法士及び作業療法士（「車椅子への移乗」、「車椅子等での移動の介護」に限る。） 救急救命士、救急救指導員（「緊急時対応」に限る。）</p>

(2) 基礎的な介護技術に関する演習	10	食事、排泄、移動・移乗、その他在宅介護を行うに当たっての基礎的な介護技術を習得する。	1 食事の介護 2 排泄、尿失禁の介護 3 体位・姿勢交換の介護（座位保持、褥瘡への対応を含む） 4 車いすへの移乗、車いす等での移動の介助 5 身体の清潔（先発、清拭、口腔ケア等）の介護 6 緊急時対応（骨折、火傷、てんかん発作、化学物質による中毒） ※ 姿勢による食物の喉の通り方を体験するため弁当等を用いて実際に食事介護する等、可能な限り実践的な講習とすること。	介護業務に従事した経験が概ね3年以上の介護福祉士 相談援助業務に従事した経験が概ね3年以上の社会福祉士 介護業務に従事した経験が3年以上の介護員（旧1級課程修了者に限る。） 相談援助業務に従事した経験が3年以上の保健師又は看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(3) 事例の検討等に関する演習	3	ホームヘルプサービス等における援助方法と実際について共通の理解を図る。	現任の主任ヘルパー等を囲んで、事例検討や実践的内容のグループ討論を行う。（事例検討、記録の付け方、上司への報告・相談の行い方等）	介護業務に従事した経験が概ね3年以上の介護福祉士 介護業務に従事した経験が3年以上の介護員（旧介護職員基礎研修課程、旧1級課程修了者に限る。） 相談援助業務に従事した経験が3年以上の保健師又は看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
3 実習	(8)			
生活介護を行う事業所等のサービス提供現場の見学	8	居宅介護や生活介護等におけるサービス提供現場の見学を通して、その役割・機能を理解する。居宅介護や生活介護等他サービスとの連携のあり方など、障がい者の日常生活への総合的支援のあり方について学習する。	居宅介護や生活介護等に係るサービス同行訪問見学 ※ 実施方法の弾力的運用 見学時間の概ね半数を超えない範囲内において、ビデオ学習をもって同行訪問見学に代えることができる。	
計	50 時間			

重度訪問介護従業者養成研修基礎課程

教 科 名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
1 講義	(3)			
(1) 重度の肢体不自由の地域生活等に関する講義	2	重度の肢体不自由の地域生活等について理解する	1 重度訪問介護の社会的役割 2 重度訪問介護の制度と現状 3 重度訪問介護の基本 4 関連機関との連携 5 重度訪問介護に従事する者の職業倫理について	障害者行政担当者 介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(2) 基礎的な介護技術に関する講義	1	介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する。 在宅介護の特徴と進め方を把握する。	1 介護の目的、機能と基本原則 2 介護ニーズと基本的対応 3 在宅介護の特徴と進め方 4 介護におけるリハビリテーションの視点 5 福祉用具の基礎知識と活用 6 ターミナルケアの考え方 7 介護者の健康管理	介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 保健師、看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
2 演習	(7)			
(1) 基礎的な介護と重度の肢体不自由とのコミュニケーションの技術に関する実習	5	食事、排泄、移動・移乗、その他在宅介護を行うに当たっての基礎的な介護技術を習得し、重度の肢体不自由障害のある人への接し方を習得する。	1 食事の介護 2 排泄、尿失禁の介護 3 体位・姿勢交換の介護(座位保持、褥瘡への対応含む) 4 身体の清潔(先発、清拭、口腔ケア等)の介護 5 緊急時対応(骨折、やけど、てんかん発作、化学物質による中毒) ※ 姿勢による食物の喉の通り方を体験するため弁当等を用いて実際に食事介護するなど、可能な限り実践的な講習とする 6 重度の肢体不自由障害のある人への接し方	介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 保健師、看護師 理学療法士 作業療法士 救命救急士、救急法指導員（内容5） 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(2) 外出時の介護技術に関する実習	2	車いすへの移乗に際しての抱きかかえ方や移乗の方法を習得する。 車いすでの移動を介助する場合の車いすの取り扱い方や平地、階段での移動方法などを習得する。	1 床と車いす間の移乗 2 ベッドと車いす間の移乗 3 2人の介助者で行う場合 4 車いすの取り扱い方 5 車いす移動介助における注意（雨の日） 7 平地での移動 8 階段における移動 9 エレベーター、エスカレーターの利用 10 乗り物を利用する場合の注意 11 歩行移動介助方法の留意点	
計	10 時間			

重度訪問介護従業者養成研修追加課程

教 科 名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
1 講義	(7)			
(1) 医療的ケアを必要とする重度訪問介護利用者の障害及び支援に関する講義	4	重度の肢体不自由者の在宅生活援助に役に立つ知識を中心に課程の医学・在宅看護の基礎知識を理解する。	1 日常的な疾患の基礎知識と予防・対処方法 2 感染症の理解と予防 3 身体を観察 4 薬の飲ませ方と保管 5 医療関係制度の基礎知識	医師 保健師、看護師 理学療法士 作業療法士 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(2) コミュニケーションの技術に関する講義	2	重度の肢体不自由障害についての理解を深め、重度の肢体不自由障害のある人への接し方を習得する。	1 重度の肢体不自由障害の種類と特徴 2 重度の肢体不自由障害のある人への接し方	介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 保健師、看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(3) 緊急時の対応及び危険防止に関する講義	1	緊急時の対応及び危険防止に関する知識を習得する。	1 危険防止のための移動の留意点 2 緊急時の対応 3 安全な食事介助 4 介助者自身のからだの保護危険防止	介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 保健師、看護師 理学療法士 作業療法士 救命救急士、救急法指導員（内容2） 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
2 実習	(3)			
重度の肢体不自由の介護サービス提供現場での実習	3	外出時に排泄、食事、衣服の着脱を行う際に安全な介助方法を習得する。	1 食事の介助方法 2 衣服着脱の介助方法 3 排泄の介助方法 ※ 在宅等で生活する障害程度区分5又は6である肢体不自由に対する介護サービス提供現場を1箇所以上含むこと。	介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 保健師、看護師 理学療法士 作業療法士 救命救急士、救急法指導員（内容2） 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
計	10 時間			

重度訪問介護従業者養成研修統合課程

教 科 名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
1 講義	(11)			
(1) 重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義	2	重度の肢体不自由者の地域生活等について理解する。	1 障害者総合支援法と関係法規 2 利用可能な制度 3 重度の肢体不自由者の地域生活	障害者行政担当者 介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(2) 基礎的な介護技術に関する講義	1	介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する。 在宅介護の特徴と進め方を把握する。	1 介護の目的、機能と基本原則 2 介護ニーズと基本的対応 3 在宅介護の特徴と進め方 4 介護におけるリハビリテーションの視点 5 福祉用具の基礎知識と活用 6 ターミナルケアの考え方 7 介護者の健康管理	介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 保健師、看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(3) コミュニケーションの技術に関する講義	2	重度の肢体不自由障害についての理解を深め、重度の肢体不自由障害のある人への接し方を習得する。	1 重度の肢体不自由障害の種類と特徴 2 重度の肢体不自由障害のある人への接し方	介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 保健師、看護師 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(4) 喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義①	3	喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害や喀痰吸引の手順を正しく理解し、緊急時の対応及び危険防止に関する知識を習得する。	1 呼吸について 2 呼吸異常時の症状、緊急時対応 3 人工呼吸器について 4 人工呼吸器に係る緊急時対応 5 喀痰吸引概説 6 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部の吸引 7 喀痰吸引のリスク、中止要件、緊急時対応 8 喀痰吸引の手順、留意点	登録研修機関に登録されている医師、保健師、看護師、助産師
(5) 経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義②	3	経管栄養を必要とする重度障害者の障害や経管栄養の手順を正しく理解し、緊急時の対応及び危険防止に関する知識を習得する。	1 健康状態の把握 2 食と排泄（消化）について 3 経管栄養のリスク、中止要件、緊急時対応 4 経管栄養の手順、留意点	
2 演習	(1)			

喀痰吸引等に関する演習	1	喀痰吸引等の手順を習得する。	1 喀痰吸引（口腔内） 2 喀痰吸引（鼻腔内） 3 喀痰吸引（気管カニューレ内部） 4 経管栄養（胃ろう・腸ろう） 5 経管栄養（経鼻）	登録研修機関に登録されている医師、保健師、看護師、助産師
3 実習	(8.5)			
(1) 基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーションの技術に関する実習	3	食事、排泄、移動・移乗、その他在宅介護を行うに当たっての基礎的な介護技術を習得し、重度の肢体不自由障害のある人への接し方を習得する。	1 食事の介護 2 排泄、尿失禁の介護 3 体位・姿勢交換の介護(座位保持、褥瘡への対応含む) 4 身体の清潔(先発、清拭、口腔ケア等)の介護 5 緊急時対応(骨折、やけど、てんかん発作、化学物質による中毒) ※ 姿勢による食物の喉の通り方を体験するため弁当等を用いて実際に食事介護するなど、可能な限り実践的な講習とする 6 重度の肢体不自由障害のある人への接し方	介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 保健師、看護師 理学療法士 作業療法士 救命救急士、救急法指導員（内容5） 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(2) 外出時の介護技術に関する実習	2	車いすへの移乗に際しての抱きかかえ方や移乗の方法を習得する。 車いすでの移動を介助する場合の車いすの取り扱い方や平地、階段での移動方法などを習得する。	1 床と車いす間の移乗 2 ベッドと車いす間の移乗 3 2人の介助者で行う場合 4 車いすの取り扱い方 5 車いす移動介助における注意（雨の日） 7 平地での移動 8 階段における移動 9 エレベーター、エスカレーターの利用 10 乗り物を利用する場合の注意 11 歩行移動介助方法の留意点	
(3) 重度の肢体不自由者の介護サービス提供現場での実習	3.5	外出時に排泄、食事、衣服の着脱を行う際に安全な介助方法を習得する。	1 食事の介助方法 2 衣服着脱の介助方法 3 排泄の介助方法 ※ 在宅等で生活する障害程度区分5又は6である肢体不自由者に対する介護サービス提供現場を1箇所以上含むこと。	介護福祉士 居宅介護従業者 重度訪問介護従業者 保健師、看護師 理学療法士 作業療法士 救命救急士、救急法指導員（内容2） 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
時間数合計	20.5 時間			

重度訪問介護従業者養成研修行動障害支援課程

教 科 名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
1 講義	(6.5)			
(1) 強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義	1.5	強度行動障害がある者の基本的な事項について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害とは <ul style="list-style-type: none"> 本研修の対象となる行動障害 強度行動障害の定義 強度行動障害支援の歴史的な流れ 知的障害/自閉症/精神障害とは 行動障害と家族の生活の理解 危機管理・緊急時の対応 ・強度行動障害と医療 <ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害と精神科の診断 強度行動障害と医療的アプローチ 福祉と医療の連携 	介護福祉士 社会福祉士 医師 保健師、看護師 重度訪問介護従業者 行動援護従業者 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(2) 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	5	強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害と制度 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援給付と行動障害/他 (例) 支援区分と行動関連項目・重度訪問介護の対象拡大・発達障害者支援体制整備・強度行動障害支援者養成研修 ・構造化 <ul style="list-style-type: none"> 構造化の考え方 構造化の基本と手法 構造化に基づく支援のアイデア ・支援の基本的な枠組みと記録 <ul style="list-style-type: none"> 支援の基本的な枠組み 支援の基本的なプロセス アセスメント票と支援の手順書の理解 記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ ・虐待防止と身体拘束 <ul style="list-style-type: none"> 虐待防止法と身体拘束について 強度行動障害と虐待 ・実践報告 <ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害のある人に支援を提供している事業者等による実践報告 児童期における支援の実際 成人期における支援の実際 (当事者家族による家族の心境、生活の状況、支援の経過などの話を織り込んでよい。) 	障害者行政担当者 介護福祉士 社会福祉士 保健師、看護師 重度訪問介護従業者 行動援護従業者 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等

2 演習	(5.5)			
(1) 基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習	1	基本的な情報収集と記録等の共有について演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集とチームプレイの基本 情報の入手とその方法 記録とそのまとめ方と情報共有 アセスメントとは 	介護福祉士 保健師、看護師 理学療法士 作業療法士 救命救急士、救急法指導員 重度訪問介護従業者 行動援護従業者 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士 等養成校の教員等
(2) 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習	3	行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解について演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 固有のコミュニケーション 様々なコミュニケーション方法 コミュニケーションの理解と表出 グループ討議/まとめ 	
(3) 行動障害の背景にある特性の理解に関する演習	1.5	行動障害の背景にある特性の理解について演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 行動障害の背景にあるもの 感覚・知覚の特異性と障害特性 行動障害を理解する氷山モデル グループ討議/まとめ 	
時間数合計	12 時間			

同行援護従業者養成研修一般課程

教 科 名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
1 講義	(12)			
(1) 視覚障害者(児)福祉サービス	1	視覚障害者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する。	1 障害者福祉の背景と動向 2 視覚障害者(児)の福祉とサービス 3 移動支援と同行援護	障害者行政担当者 身体障害者福祉司 社会福祉士
(2) 同行援護の制度と従業者の業務	2	同行援護の制度と従業者の業務を理解する。	1 同行援護の制度 2 同行援護従業者の業務 3 同行援護従業者の職業倫理	障害者行政担当者 視覚障害者移動介護従業者 同行援護従業者
(3) 障害・疾病の理解①	2	業務において直面する頻度の高い障害・疾病を医学的、実践的視点で理解するとともに、援助の基本的な方向性を把握する。	1 視覚障害の現状、 2 視覚障害者についての理解 3 視覚障害の原因疾病と症状	眼科医師 保健師 歩行指導員 視覚障害者生活指導員
(4) 障害者(児)の心理①	1	視覚障害者(児)の心理に対する理解を深め、心理的援助の在り方について把握する。	1 先天性視覚障害者の心理 2 中途視覚障害者の心理	心理判定員 臨床心理士
(5) 情報支援と情報提供	2	移動中に必要な情報支援、情報提供の基礎を習得する。	1 言葉による情報提供の基礎 2 移動中の口頭による情報支援 3 状況や場面別での情報提供 4 情報支援機器の種類	視覚障害者移動介護従業者 同行援護従業者 歩行指導員 視覚障害者生活指導員
(6) 代筆・代読の基礎知識	2	情報支援としての代筆・代読の方法を習得する。	1 代筆 2 代読 3 点字・点訳の基礎	視覚障害者移動介護従業者 同行援護従業者 歩行指導員 視覚障害者生活指導員
(7) 同行援護の基礎知識	2	同行援護の目的と機能を理解し、基本原則を把握する。	1 視覚障害者への接し方 2 歩行に関する補装具・用具の知識 3 日常生活動作に関する用具の知識 4 環境と移動に伴う機器	視覚障害者移動介護従業者 同行援護従業者 歩行指導員 視覚障害者生活指導員
2 演習	(8)			
(1) 基本技能	4	基本的な移動支援の技術を習得する。	1 基本姿勢と留意点 2 歩行、曲がる 3 狭い場所の通過 4 ドアの通過 5 いすへの誘導	視覚障害者移動介護従業者 同行援護従業者 歩行指導員 視覚障害者生活指導員

			6 段差・階段 7 交通機関の利用の基本	
(2) 応用技能	4	応用的な移動支援の技術を習得する。	1 環境に応じた歩行 2 さまざまな階段 3 さまざまなドア 4 エレベーター 5 エスカレーター 6 車の乗降 7 食 事 8 トイレ 9 車いす利用の視覚障害者への対応	視覚障害者移動介護従業者 同行援護従業者 歩行指導員 視覚障害者生活指導員
時間数合計	20 時間			

同行援護従業者養成研修応用課程

教 科 名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
1 講義	(2)			
(1) 障害・疾病の理解②	1	業務において直面する障害・疾病を医学的、実践的視点でより深く理解する。	1 「見える」ということ 2 「見えること」と「行動」 3 弱視の見え方、見えにくさ 4 盲重複障害について	眼科医師 保健師 歩行指導員 視覚障害者生活指導員
(2) 障害者(児)の心理②	1	視覚障害者(児)の心理に対する理解を深め、適切な対応ができるよう習得する。	1 障害の受容 2 家族の心理 3 視覚障害者の人間関係	心理判定員 臨床心理士
2 演習	(10)			
場面別基本技能	3	日常的な外出先での技術を習得する。	1 窓口やカウンター 2 買い物 3 雨・雪の日 4 金銭・カード	視覚障害者移動介護従業者 同行援護従業者 歩行指導員 視覚障害者生活指導員
場面別応用技能	3	目的に応じた外出先での技術を習得する。	5 病院・薬局 6 式典、会議、研修 7 冠婚葬祭 8 盲導犬ユーザーへの対応	
交通機関の利用	4	交通機関での移動支援技術を習得する。	1 電車 2 バス	
時間数合計	12 時間			

行動援護従業者養成研修課程

教 科 名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
1 講義	(10)			
(1) 強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義	1.5	強度行動障害がある者の基本的な事項について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害とは <ul style="list-style-type: none"> 本研修の対象となる行動障害 強度行動障害の定義 強度行動障害支援の歴史的な流れ 知的障害/自閉症/精神障害とは 行動障害と家族の生活の理解 危機管理・緊急時の対応 ・強度行動障害と医療 <ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害と精神科の診断 強度行動障害と医療的アプローチ 福祉と医療の連携 	介護福祉士 社会福祉士 医師 保健師、看護師 重度訪問介護従業者 行動援護従業者 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(2) 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	5	強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害と制度 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援給付と行動障害/他 (例) 支援区分と行動関連項目・重度訪問介護の対象拡大・発達障害者支援体制整備・強度行動障害支援者養成研修 ・構造化 <ul style="list-style-type: none"> 構造化の考え方 構造化の基本と手法 構造化に基づく支援のアイデア ・支援の基本的な枠組みと記録 <ul style="list-style-type: none"> 支援の基本的な枠組み 支援の基本的なプロセス アセスメント票と支援の手順書の理解 記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ ・虐待防止と身体拘束 <ul style="list-style-type: none"> 虐待防止法と身体拘束について 強度行動障害と虐待 ・実践報告 <ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害のある人に支援を提供している事業者等による実践報告 児童期における支援の実際 成人期における支援の実際 (当事者家族による家族の心境、生活の状況、支援の経過などの話を織り込んでよい。) 	障害者行政担当者 介護福祉士 社会福祉士 保健師、看護師 重度訪問介護従業者 行動援護従業者 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等

(3) 強度行動障害がある者へのチーム支援に関する講義	3	強度行動障害がある者へのチーム支援について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害支援の原則 チームによる支援の重要性 支援の6つの原則 地域で強度行動障害の人を支える 	介護福祉士 居宅介護従業者 行動援護従業者 保健師、看護師
(4) 強度行動障害と生活の組立てに関する講義	0.5	強度行動障害の生活に関する支援を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 行動障害のある人の生活と支援の実際 行動障害のある人の家族の思い 日中活動場面における支援 夕方から朝にかけての支援 外出場面における支援 	福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
2 演習	(14)			
(1) 基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習	1	基本的な情報収集と記録等の共有について演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集とチームプレイの基本 情報の入手とその方法 記録とそのまとめ方と情報共有 アセスメントとは 	介護福祉士 保健師、看護師 理学療法士 作業療法士 救命救急士、救急法指導員 重度訪問介護従業者 行動援護従業者 福祉・介護・看護系大学、介護福祉士等養成校の教員等
(2) 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習	3	行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解について演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 固有のコミュニケーション 様々なコミュニケーション方法 コミュニケーションの理解と表出 グループ討議/まとめ 	
(3) 行動障害の背景にある特性の理解に関する演習	1.5	行動障害の背景にある特性の理解について演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 行動障害の背景にあるもの 感覚・知覚の特異性と障害特性 行動障害を理解する氷山モデル グループ討議/まとめ 	
(4) 障害特性の理解とアセスメントに関する演習	3	障害特性の理解とアセスメントに関する演習	<ul style="list-style-type: none"> 障害特性とアセスメント 障害特性の理解 障害特性に基づくアセスメント 行動の意味を理解する 	
(5) 環境調整による強度行動障害の支援に関する演習	3	環境調整による強度行動障害の支援について演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 構造化の考え方と方法 強みや好みを活かす視点 構造化の考え方 構造化の方法 	
(6) 記録に基づく支援の評価に関する演習	1.5	記録に基づく支援の評価について演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 記録の収集と分析 行動の記録の方法 記録の整理と分析 再アセスメントと手順書の修正 	

(7) 危機対応と虐待防止に関する演習	1	危機対応と虐待防止について演習する。	・危機対応と虐待防止 危機対応の方法 虐待防止と身体拘束	
時間数合計	24 時間			